

桜の植樹を通じ 津波被害後世に

名古屋で講演会

東日本大震災の津波到達点に沿って桜を植える活動をしている岩手県陸前高田市のNP法人「桜ライン311」の岡本翔馬代表(三)の講演が二十日、



名古屋市中区錦一の名古屋サンスカイルームであった二写真。

陸前高田市出身の岡本さんは、東京の建築関係会社で働いていたころ、東日本大震災に遭遇。故郷の惨状を目の当たりにし、二カ月後に会社を退職した。二〇一一年十月に桜ラインの任意団体を立ち上げ、一二年五月にNP法人化した。

震災で後輩を

亡くした経験に触れ「この震災を『悲しかった』で終わらせてはいけない。桜の植樹活動を通じ、津波の教訓を後世に残していかなければ」と訴えた。市内の津波到達点の総延長百七十キに十以間隔で一万七千本を植樹する。十二月現在の植樹は七百六十七本。

名古屋青年会議所が開いた。企業経営者ら百人が参加した。